

原稿作成要領

雑誌名	東北大学歯学雑誌
巻	24
号	2
ページ	75-76
発行年	2005-12-27
URL	http://hdl.handle.net/10097/00112903

東北大学歯学会賞に関する規程

平成13年3月7日制定

(目的)

第1条 東北大学歯学会（以下「本学会」という。）会員の優れた研究論文の著者を表彰し、歯科医学の発展に寄与するためのものである。

(名称)

第2条 表彰の名称は東北大学歯学会賞とする。

(対象)

第3条 対象は、次の各項に該当する者若干名とする。

- 1) 東北大学大学院歯学研究科・歯学部で研究に従事する本学会会員であること。
- 2) 過去3年間に権威ある学会誌等に掲載された原著論文の筆頭著者であること。

(選考)

第4条 評議員より推薦を受けた候補者について本学会理事会で選考し、評議員会で決定する。

(表彰)

第5条 本学会は評議員会の決定を受けて、東北大学歯学会

賞の受賞者を表彰する。

- 1) 表彰は年1回とし、本学会総会で行う。
- 2) 受賞者には賞状及び副賞を授与する。

第6条 受賞者は、受賞論文の内容を本学会で講演し、その要旨を本学会誌に発表することとする。

(会計)

第7条 東北大学歯学会賞に係わる運営費は、会費及びその他の収入により賄う。

第8条 東北大学歯学会賞の予算、決算は総会に報告するものとする。

(その他)

第9条 この規程を改定する場合は、評議員会の議を経て総会に報告するものとする。

附則

この規程は、平成13年6月22日から施行する。

投 稿 規 定

1. 投稿は他誌に発表していない総説、原著および症例報告とする。本誌はその他に、歯学情報、本学会講演抄録、学会関係記事、学位論文などを掲載する。
2. 本誌への投稿者は共著者を含めて全員本学会会員でなければならない。
3. 投稿および別冊は有料とする。
4. 原稿は別に定める原稿作成要領に従って作られたものでなければならない。投稿規定および原稿作成要領に添わない原稿は訂正を求め、または返却する場合がある。
5. 投稿の際には、原稿（正1部、コピー2部計3部）と投稿申込書（本誌綴込み）に必要事項を記入し、編集委員長宛

に提出すること。

6. 本誌に掲載された論文、抄録等の著作権は東北大学歯学会に帰属する。但し、学位論文に関してはその限りではない。
7. 原稿の送付および本誌に関する問い合わせは下記宛とする。

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

東北大学大学院歯学研究科

口腔機能形態学講座 口腔生理学分野

東北大学歯学雑誌編集委員会

電話 022-717-8290（編集委員長 林 治秀）

原 稿 作 成 要 領

1. 原稿はワードプロセッサを使用して、A4判の用紙に28字×24行で鮮明に印字すること。文中の欧文は半角文字で印字すること。
2. 学術用語を除いてはなるべく当用漢字を用いること。
3. 数字は原則としてアラビア数字を、また計量単位はなるべく国際単位系に準じたものを使用すること。
4. 原稿は、①表紙（論文標題・著者氏名・所属機関名・指導者名を和文および英文（学位論文には不要）で記載し、略題—ランニング・タイトル—を記すこと、その様式は本誌掲載論文の例を参照のこと）、②内容要旨（600字以内）とそれに対応する英文のAbstract（300語以内、学位論文には不要）、英文はA4判の用紙にダブルスペース

25 行にタイプし、末尾に 5 つ以内の Key words を付ける、③ 本文および文献（原稿用紙右上に通し頁数を記入）、④ 表、⑤ 図（写真を含む）の標題と説明、⑥ 図、の順にそろえる。これらの中で①、②、③まで一括してクリップでとめ、④、⑤、⑥はそれぞれ別々にクリップでとめる。

5. 図・表などを挿入するおおよその位置を原稿用紙の右欄外に朱書きする。

6. 図・表の原稿は下記に準じて作製すること。

(イ) すべて一点毎に別葉とする。

(ロ) 図は上質の白紙（ケント紙のような厚紙）、淡青色の方眼紙、トレース紙などに必ず黒インクまたは墨で、そのまま製版出来る清書原稿を用意する。この中トレース紙のように薄紙を使用した場合は必ずこれを台紙（A4 判大）にはること。

(ハ) もしそのような清書原稿が作れない場合は、あとでトレース出来るような正確な鉛筆書きの原図を提出してもよい。この場合のトレース代は著者負担となる。

(ニ) 写真は必ず厚紙台紙（A4 判大）にはり、上、下を指示する。

(ホ) 図や写真の中に文字、その他を入れたいときは、トレース紙を重ね、その上に鉛筆で入れたい位置に記入する。ただしタイプやレタリングなどによるむらのない鮮明な文字で、直接製版に耐え得るものであれば、図や写真に直接はりつけてもよい。この場合の文字は印刷上の縮小を考慮して若干大きめの字にする。

(ヘ) 図および表にはそれぞれの番号を原稿の右上すみに鉛筆で示す（図 1、図 2……表 1、表 2……）。

(ト) 図・表はすべて各葉毎にうらに著者姓名（共著の場合は筆頭者のみでよい）を記入する。

(チ) 図・写真の原稿の大きさについて

(1) 図の原稿は特別の場合を除き A4 判大の用紙に A5 判位の枠内におさまる程度にまとめること。縮小率は特に希望指定がない限り、編集者が判断してきめる。

(2) 写真原稿は、一枚ずつの場合は手札〜キャビネ程度の大きさのものを用意する。特別指定がなければこれらは通常 1 段（約 7 cm）幅に縮小印刷される。ただし、顕微鏡写真類は倍率の関係上、特に指定がなくても原寸大印刷が原則となるので、それを考慮して作ること。

(3) 何枚かの写真や図を一カ所に集めたい場合は、全体が A5 判の枠を出ない程度にまとめる。

7. 文献は出現順に一連番号をつけ、また本文中の引用箇所には、その右肩に該当番号を片かっこをつけて示す。

8. 文献の記載様式は原則として下記に準ずる（；、.などは特に注意して下記の例にならってつけること。ただし雑誌名のあとには何もつかないので注意）。

註 1: 文献の著者または編集者が複数の場合には et al. 他、などとせず、その全部を記載する。

註 2: 著者名が欧字綴の場合は姓の後に名前の頭文字をつけ、また著者が複数の場合は最後の著者の前に and を入れる（例：Evans, A.T., Kato, H. and Hilton, S.）

〔雑誌の場合〕

著者氏名：文献標題。雑誌名 巻数（太字）：ページ（最初-最後）、西暦年号。

記載例：

1) 佐藤秀人, 佐藤勝彦, 遠谷良雄, 山本 肇：小窩裂溝に対するフッ化ジアンミン銀塗布とレーザー照射との併用効果について。歯基礎誌 23：401-406, 1981.

2) Shackleford, J.M. and Klapper, C.E.：Casein degrading ability of hamster, rat and mouse salivary glands. Arch. Oral Biol. 7：337-342, 1962.

3) Bower, J.M., Camble, R. and Gregory, H.：The inhibition of gastric acid secretion by epidermal growth factor. Experientia 32：825-826, 1975.

〔通常単行書の場合〕

著者氏名：書名。出版社、出版地、出版年次、引用ページ。

記載例：

1) 白数美輝雄, 中村正男, 石橋九平：歯の形態学。医歯薬出版、東京、1970, pp. 75-78.

2) Burgen, A.S.V. and Emmelin, N.G.：Physiology of the salivary glands. Edward Arnold Press, London, 1961, pp. 197-206.

〔分担執筆様式の単行書の場合〕

著者氏名：文献標題。編者氏名：書名。出版社、出版地、出版年次、引用ページ。

記載例：

1) 小野博志：心身障害児の歯科治療。山下 浩編：小児歯科学。医歯薬出版、東京、1980, pp. 735-758.

2) Schneyer, L.H.：Observations on secretory potentials in rat submaxillary gland. Botelho, S.Y., Brooks, F.P. and Shelley, W.B. (edit.): Exocrine glands. University of Pennsylvania Press, Philadelphia, 1969, pp. 30-34.

9. 著者の校正は原則として初校時のみとする。校正の段階での内容の大幅な変更や書き直しは許されない。